

● 教室(診療科)の特色 ●

手術麻酔・ペインクリニック・集中治療・救急医療(大阪府三島救命救急センター)・緩和医療・在宅医療(同門の先生と連携)・老人医療(関連施設)を担当しています。また、麻酔科学を修得することで、入局してから引退するまで(ゆりかごから墓場まで)、「ジェネラリスト」として様々な分野の診療ができます。



南 敏明(みなみ としあき)教授

■専門分野
麻酔科学・疼痛治療学

■職歴

1987年3月 大阪医科大学(現 大阪医科大学薬科大学)卒業
1987年6月 大阪医科大学麻酔科学教室に入局
1993年3月 大阪医科大学大学院修了 医学博士
2002年4月～ 大阪医科大学教授
2006年6月～2018年3月 関西医科大学客員教授
2020年4月～ 大阪医科大学病院病院長

■主な学会/専門医資格

日本麻酔科学会/代議員/指導医
日本ペインクリニック学会/評議員/専門医
日本臨床麻酔学会/評議員

■研究課題

神経障害性痛のメカニズムの解明と治療薬の開発



中平 淳子(なかひら じゅんこ)講師(科長)

■専門分野
麻酔科学・心臓血管麻酔

■職歴

2003年3月 大阪医科大学(現 大阪医科大学薬科大学)卒業
2003年4月 大阪医科大学麻酔科学教室に入局
2008年3月 医学博士
2019年4月～ 大阪医科大学麻酔科学教室講師
2020年4月～ 大阪医科大学病院麻酔科・ペインクリニック科科長

■主な学会/専門医資格

日本麻酔科学会/指導医
日本心臓血管麻酔学会/専門医
日本臨床麻酔学会

■研究課題

周術期の呼吸評価、肺容量の変化



日下 裕介(くさか ゆうすけ)特別任命教員教授

■専門分野
麻酔科学・集中治療医学

■職歴

2004年3月 大阪医科大学(現 大阪医科大学薬科大学)卒業
2004年4月～2006年3月 初期臨床研修
2006年4月 大阪医科大学麻酔科学教室に入局
2013年9月 医学博士
2016年4月 大阪医科大学麻酔科学教室講師
2020年5月～ 大阪医科大学麻酔科学教室特別任命教員教授

■主な学会/専門医資格

日本麻酔科学会/指導医、日本集中治療医学会/専門医
日本心臓血管麻酔学会/専門医

■研究課題

動脈圧波形解析、周術期の輸液・輸血療法

● 診療科の概要・特徴 ●

大阪医科大学薬科大学病院では、2020年、全手術件数11,723件、麻酔科管理症例6,699件と豊富な症例を経験できます。また、ペインクリニック外来は、1966年、故兵頭正義教授が日本においては東京大学に次いで2番目に開設され、伝統があります。医局員の出身大学は25大学からなります。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	研究課題
日下裕介(特別任命教員教授)	日本麻酔科学会指導医・日本集中治療医学会専門医・日本心臓血管麻酔専門医	心臓血管麻酔・集中治療
梅垣 修(准教授)	日本麻酔科学会指導医・日本集中治療医学会専門医・日本救急医学会救急科専門医	集中治療
宮崎信一郎(講師)	日本麻酔科学会指導医・日本心臓血管麻酔専門医・日本ペインクリニック学会専門医	心臓血管麻酔
中平淳子(講師)	日本麻酔科学会指導医・日本心臓血管麻酔専門医	心臓血管麻酔・呼吸管理
間嶋 望(講師)	日本麻酔科学会指導医	小児麻酔
門野紀子(助教)	日本麻酔科学会指導医・日本集中治療医学会専門医	麻酔科学・集中治療
下山雄一郎(助教)	日本麻酔科学会指導医・日本集中治療医学会専門医	麻酔科学・集中治療
今川憲太郎(助教)	日本麻酔科学会専門医	集中治療
中野祥子(助教)	日本麻酔科学会指導医	小児麻酔
藤原 淳(助教)	日本麻酔科学会専門医	小児麻酔
中尾謙太(助教)	日本麻酔科学会専門医、日本ペインクリニック学会専門医	麻酔科学・ペインクリニック
北埜 学(助教)	日本麻酔科学会専門医	小児麻酔
上野健史(助教)	日本麻酔科学会専門医、日本小児科学会専門医	小児麻酔

■ 連絡 先：大阪医科薬科大学医学部麻酔科学教室 TEL:072-683-1221 / e-mail:ane000@ompu.ac.jp

■ ホームページ：https://www.osaka-med.ac.jp/deps/ane/Ane-index-J.html

氏名(職掌)	専門医	研究課題
石尾純一(助教)	日本麻酔科学会専門医、日本ペインクリニック学会専門医	麻酔科学・ペインクリニック
佐野博昭(助教)	日本麻酔科学会専門医	麻酔科学・ペインクリニック
出口志保(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	麻酔科学・集中治療
長峯達成(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	心臓血管麻酔
山崎智己(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	心臓血管麻酔

初期研修プログラムの特徴

本院の中央手術室では、2019年には麻酔科管理症例7,272件と症例が非常に豊富であり、心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔などをバランスよく研修ができます。麻酔科標榜医取得には、「医師免許を受けた後、麻酔の実施に関して十分な修練を行うことのできる病院または診療所において、2年以上修練をしたこと。(医療法施行規則第42条の4第2項第1号。)」が必要ですが、そのためのキャリアとなります。

研修内容

手術麻酔

<1年目>

- ①末梢静脈確保
- ②マスク保持
- ③ラジアルマスク挿入
- ④胃管挿入
- ⑤観血的動脈圧穿刺
- ⑥脊髄くも膜下麻酔
- ⑦橈骨・大腿動脈穿刺
- ⑧slow induction
- ⑨気管挿管
- ⑩全身麻酔管理
- ⑪中心静脈穿刺

<2年目>

- ①手術麻酔の1年目の内容
- ②肺動脈カテーテル挿入
- ③硬膜外麻酔
- ④分離肺換気

ペインクリニック(2年目, 2-3ヶ月)

- ①疼痛の基本的知識の理解
- ②疼痛疾患の問診
- ③ペインクリニックにおける代表的な疾患の診断と治療法の理解
- ④各種神経ブロックの適応と方法の理解

⑤各種薬物療法の意義と施行方法の理解

⑥理学療法の理解

⑦手技の実践

- ⑧トリガーポイント注射
- ⑨仙骨部硬膜外ブロック
- ⑩持続硬膜外ブロック
- ⑪膝関節注射

集中治療 (ICU) (2年目, 2-3ヶ月)

- ①重傷集中治療の基本概念の理解
- ②重症患者の病態把握
- ③循環系モニタリング (動脈圧、肺動脈カテーテル等) の評価
- ④循環作動薬の使用
- ⑤呼吸不全の病態の理解
- ⑥人工呼吸器を使用した呼吸管理
- ⑦急性血液浄化
- ⑧感染症治療の基礎
- ⑨栄養管理

評価方法

日本麻酔科学会専門医により、研修内容の評価を行う。



大阪医科大学麻酔科学教室 開講50周年記念式典

専門研修プログラムの特徴

2016年4月1日より、新中央手術棟(手術室20室、集中治療室16床)が新設され、麻酔科医局も1.5倍の広さになりました。麻酔、ペインクリニック、集中治療、救急医学、緩和医療を網羅したジェネラリストと、心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔などの専門分野を有するスペシャリストの両面を備えた麻酔科専門医を育成致します。

種々のセミナー(麻酔科学関連だけではなく、学会発表のためのPower Pointの使い方、統計など)の開催、専門医試験対策などのテキストの作成、麻酔科専門医実技試験のためのマネキンを用いたシミュレーション、学会発表・論文作成の指導、将来の志望に応じた人事面でのサポートなどを行っています。



2019年 麻酔科専門医試験実技試験対策セミナー

プログラムの運営方針

- ・4年間で手術麻酔の各専門分野(心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔など)を網羅的に研修するだけでなく、麻酔科専門医に求められるペインクリニック、集中治療、救急医療、緩和医療に関しても一定期間研修する。
- ・研修の前半2年間のうち少なくとも1年間は、責任研修基幹施設の大阪医科薬科大学病院で研修を行う。
- ・責任研修基幹施設では手術室麻酔だけでなくペインクリニックや集中治療を調整の上、一定期間ローテーションする。
- ・希望により国立循環器病研究センター、兵庫県立こども病院で1年間の研修を行う。
- ・研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- ・目標達成のために、シミュレーションセミナー(困難気道管理(年2回開催)、超音波ガイド下中心静脈穿刺講習会(年3回開催)、鎮静管理法(年4回開催)、神経ブロック(年1回開催))の開催を行う。各自1回は受講し、専門医に必要な知識、手技の確認および研鑽を行う。
- ・最低経験症例を満たしながらも、各自の希望を相談しサブスペシャリティの構築を目指す柔軟なプログラムとする。

研修実施計画例

	標準	小児または心臓	ペインクリニックまたは集中治療	社会人大学院
初年度	本院 (ペインクリニック、集中治療)	本院	本院	本院
2年度	専門研修連携施設1	専門研修連携施設	専門研修連携施設1	専門研修連携施設
3年度	専門研修連携施設2	国立循環器病研究センター 兵庫県立こども病院	専門研修連携施設2	本院
4年度	本院	国立循環器病研究センター 本院	本院 (ペインクリニックまたは集中治療)	本院

取得できる認定医・専門医

麻酔科標榜医、日本麻酔科学会認定医・専門医・指導医
日本ペインクリニック学会専門医、日本集中治療医学会専門医
日本救急医学会専門医・指導医、日本心臓血管麻酔学会専門医
日本緩和医療学会専門医、日本小児麻酔学会認定医

2020年麻酔科管理症例数

1963年 麻酔科認定病院取得
麻酔科管理症例 6,699症例

	症例数
小児(6歳未満)の麻酔	275症例
帝王切開術の麻酔	158症例
心臓血管手術(小児・成人)の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	364症例
TAVI・ステントグラフト手術	63症例
呼吸器外科手術の麻酔	359症例
脳神経外科手術の麻酔	332症例

大学院における教育・研究活動

教育・研究指導方針

研究は、臨床研究、基礎研究、さらに基礎研究でも動物（マウス、ラット）、細胞を用いた研究を行うかは、まず個人の意思を尊重している。研究テーマは、「痛み」が中心で、興味あるテーマがあれば柔軟に対応している。

研究活動の現状

岐阜大学大学院医学系研究科再生医科学専攻、大阪工業大学工学部生命工学科との共同研究、合同カンファレンスを行っている。

現在の研究テーマ

- ①南 敏明 教授
神経障害性痛のメカニズムの解明と治療薬の開発
- ②日下 裕介 特務教授
動脈圧波形解析、周術期の輸液輸血療法
- ③梅垣 修 准教授
重症集中治療医学に関する臨床研究
- ④中平 淳子 講師(科長)
人工呼吸管理
- ⑤宮崎 信一郎 講師
周術期の疼痛管理
- ⑥間嶋 望 講師
小児麻酔に関する臨床研究

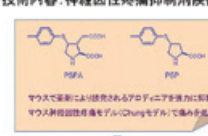
研究業績

原 著

- ①Minami T. et al. Pain. 50: 223-229, 1992. (学位論文)
- ②Nishihara I. et al. Brain Res. 677: 138-144, 1995. (学位論文) (日本麻酔科学会若手研究者奨励賞)
- ③Onaka M. et al. Anesthesiology. 84: 1215-1222, 1996. (学位論文)
- ④Hara N. et al. Br. J. Pharmacol. 121: 401-408, 1997. (学位論文) (日本麻酔科学会若手研究者奨励賞)
- ⑤Sakai M. et al. Br. J. Pharmacol. 123: 890-894, 1998. (学位論文)
- ⑥Okuda-Ashitaka E. et al. Nature. 392: 286-289, 1998.
- ⑦Eguchi N. et al. Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A. 96: 726-730, 1999.
- ⑧Nakano H. et al. J. Pharmacol. Exp. Ther. 292: 331-336, 2000. (学位論文)
- ⑨Doi Y. et al. Neuroreport. 13: 93-96, 2002. (学位論文)
- ⑩Muratani T. et al. J. Pharmacol. Exp. Ther. 303: 424-430, 2002. (学位論文)
- ⑪Nishimura W. et al. Eur. J. Pharmacol. 503: 71-75, 2004. (学位論文)
- ⑫Tatsumi S. et al. Neuroscience. 131: 491-498, 2005. (学位論文)
- ⑬Takayama R. et al. Anesth & Analg 100: 1458-1462, 2005. (学位論文)
- ⑭Sawai T. et al. Anesth & Analg 101: 1597-1601, 2005. (学位論文)
- ⑮Shimizu S. et al. Anesthesiology 104: 791-797, 2006. (学位論文)

- ⑯川上真樹子. 大阪医科大学雑誌 65: 212-220, 221-231, 2006. (学位論文)
- ⑰Soen M. et al. Eur. J. Pharmacol. 575: 75-81, 2007. (学位論文)
- ⑱Nakahira J. et al. Bull. Osaka Med. Coll. 56: 49-57, 2010. (学位論文)
- ⑲Shimoyama Y. et al. J. Clin. Anesth. 24: 531-536, 2012. (学位論文) (日本麻酔科学会若手研究者奨励賞)
- ⑳Kusaka Y. et al. J. Cardiothorac. Vasc. Anesth. 26: 223-226, 2012. (学位論文)
- ㉑Miyazaki S. et al. Eur. J. Pharmacol. 710: 120-127, 2013. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㉒Kori K. et al. J. Altern. Complement. Med. 19: 946-950, 2013. (学位論文)
- ㉓Majima N. et al. Bull. Osaka Med. Coll. 59: 37-44, 2013. (学位論文)
- ㉔Shiomi M. et al. J. Anesth. 28: 593-600, 2014. (学位論文)
- ㉕Shiomi M. et al. Eur. J. Pharmacol. 724: 58-66, 2014. (兵頭正義記念賞)
- ㉖Kadono N. et al. Bull. Osaka Med. Coll. 60: 13-18, 2014. (学位論文)
- ㉗Yamaguchi K. et al. Respir. Physiol. Neurobiol. 206: 11-14, 2015. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㉘久保田泰弘. 大阪医科大学雑誌 73: 75-80, 2014. (学位論文)
- ㉙Omoto H. et al. Eur. J. Pharmacol. 760: 42-48, 2015. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㉚Kuzukawa Y. et al. Anesth & Analg. 121: 1202-1206, 2015. (学位論文)
- ㉛Fujiwara S. et al. Biomed. Res. Int. 190163, 2015. (学位論文)
- ㉜Kusunoki T. et al. J. Clin. Anesth. 33: 37-40, 2016. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㉝Kido H. et al. J. Clin. Anesth. 27: 476-480, 2015. 29:40-45, 2016. (学位論文)
- ㉞Cho T. et al. Am. J. Emerg. Med. 34: 989-992, 2016. (学位論文)
- ㉟Nakano S. et al. BMC Anesthesiol. 16: 32, 2016. (学位論文)
- ㊱Kuwanura A. et al. J. Altern. Complement. Med. 21: 485-488, 2015. (学位論文)
- ㊲Mihara R. et al. Acute Med Surg. 5: 350-357, 2018. (学位論文)
- ㊳Nakao K. et al. Evid Based Complement Alternat Med. 2356920, 2019. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㊴Fujiwara A. et al. J. Anesth. 34: 373-381, 2020. (学位論文)

特許申請

技術内容: 神経因性疼痛抑制剤候補化合物  セライトで実用により改良されるアロパニクス系力に抑制 セライト神経因性疼痛を抑制(Chungモデル)で痛みを軽減 難治性の神経因性疼痛治療薬としての開発が期待できる	本技術に関する知的財産権 ■発明の名称: 神経因性疼痛抑制剤であるピロリジン誘導体 及びその製造法 特許出願番号: PCT JP2007/000489 出願人: 岐阜大学、関西医科大学、大阪医科大学 発明者: 鈴木正昭、古田平史、伊藤誠二、南 敏明 ■発明の名称: フロリン誘導体 特許出願番号: 特願2007-153755 出願人: 岐阜大学、関西医科大学、大阪医科大学 発明者: 鈴木正昭、古田平史、伊藤誠二、南 敏明
---	--

医局員からのコメント



藤原 淳 助教

大阪医科薬科大学麻醉科学教室へようこそ!!

令和3年度より医局長を務めている藤原です。私は、平成20年度に大阪医科大学(現 大阪医科薬科大学)を卒業後に同大学附属病院で初期研修医を経て、平成22年度より麻醉科学教室に入局しました。大学病院や関連病院で一般麻酔、心臓麻酔、小児麻酔、ICU、救急、ペインクリニックを経験し、その後最も興味のある小児心臓麻酔の腕を磨くためにマレーシア国立循環器病センターに留学経験を経て、現在は手術麻酔の業務を傍らに痛みの基礎研究に動いています。

麻醉科医師の働き方は様々な形があると思います。当教室でも色々な目標を持った人達がいて研修を行なっています。例えば、心臓麻酔や小児麻酔などの専門に特化した手術麻酔を数多く経験したい、将来開業したいのでペインクリニックを勉強したい、集中治療や救急で重症症例を経験したい、疼痛コントロールだけでなくがんケア全般を学びたいなどがあるかと思いますが、麻醉科で行う業務の全ての研修を学べるのが当教室の強みです。

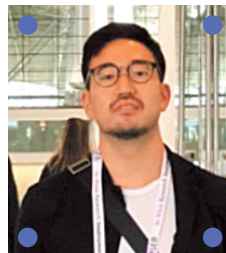
私が大学で勤務をしている理由は基礎研究を行いたいからです。当教室で行なっている基礎研究は、マウスを用いた神経障害性疼痛やがん性疼痛などの慢性疼痛に対する病態機序の解明を主に行なっております。各々が研究テーマを持ち、進捗状況や方針について2ヶ月毎に研究員が集まってカンファレンスを行います。疼痛だけでなく、臨床麻酔で疑問に感じたことを動物実験で解明したいというテーマを持って基礎研究されている方もいます。

私は平日5日間、手術麻酔に専従し、土曜に自分の研究を行い、日曜日は仕事を忘れて趣味や家族との時間を楽しんでいます。趣味はサッカー、キャンプ、釣り、サーフィンですが、中でも最近では小学生の息子のサッカーの試合の応援に行き、一緒にいる時は四六時中サッカーの話をして楽しんでいます。臨床での任務以外の時間を自分自身のライフワークや子供の大事な成長過程にバランス良く費やせていることに満足していますし、それは当教室のサポートのおかげや麻醉科の特色でもあると思っています。気付けば教室に10年以上在籍し、今は教室が第2の家族のような存在です。自分自身まだまだ未熟で、親である教授や講師の先生に多くのサポートを受け一方、増えてきた若い後輩達の日々の成長や頑張りが自分の子供のように見えて嬉しく感じます。

これからレジデントとして研修される方、将来どのような道に進むにしても数年間は医師として地に足をつける重要な時期となるでしょう。麻醉科をお考えでしたら当教室ファミリーに身を委ねてみてはいかがでしょうか？将来どんな形であろうとも麻醉科で携わる働き方への夢があるのであれば、医師として立派に働いていけるよう全力でサポートしたいと思います。

"Live your dream! Support for your life!"

是非とも一緒に医者人生を楽しんで頑張りましょう！



成尾 英和 助教(准)

卒後6年目で入局して感じること

2015年に他大学を卒業後、沖縄県の市中病院で2年間の初期臨床研修を修了しました。その後2017年から大阪府の市中病院で、3年間麻醉科専攻医として勉強しました。麻酔をしているうちに

ペインクリニックに興味を持ち、その分野でも歴史のある大阪医科大学に入局しました。卒後6年目という謂わば中途半端な学年での入局ですが、南教授をはじめスタッフの方々から温かく受け入れてくださり、日々楽しく仕事させていただいています。

大学病院は市中病院に比べ症例の「種類」と「数」が豊富なことは当然ですが、やはりアカデミックなところが特徴と感じています。残念ながら個人が担当できる症例数には物理的な限界がありますが、術後検討などを通して他の先生が担当された重症症例やトラブル症例の知識を得ることができます。また定期的に研修医およびレジデント向けのレクチャーが設けられており、体系的な知識の習得も可能です。

また、入局してからのこの一年は手術麻酔をする傍ら、当初の希望通りペインクリニック外来も担当させていただきました。ペインクリニックは大学病院のような大規模な病院でないと出来ない治療と、診療所のような小規模な病院が得意とする治療があります。当院の麻酔ペインクリニックは地域の病院と密に関わっており、多くの患者さんを紹介していただきますし、逆に地域のクリニックへ紹介することも多々あります。このように患者さんの痛みの状況に応じて、適切な場所で適切な治療法をもって介入することを学んでいます。この経験は、今後ペインクリニックとして歩んでいく人生の土台となることでしょう。

当院麻醉科は様々な大学や病院出身者が集まっています。もし他大学出身等の理由で入局を躊躇しているのであれば、是非一度見学にお越しいただき雰囲気を感じて頂ければと思います。



富畑 翔 鳥取大学医学部附属病院救急科

鳥取大学医学部附属病院救急科での研修を終えて

平成30年に大阪医科大学(現 大阪医科薬科大学)麻醉科学教室に入局した富畑翔です。

この度は半年間という短い期間ではありましたが、鳥取大学医学部附属病院救急科で救急医療、集中治療を勉強して参りました。南教授と交流のあった上田先生が、鳥取大学医学部附属病院救急科の教授になられたことで、今回の救急研修を快諾して頂きました。

鳥取大学医学部附属病院の救命救急センターは地域の救急医療機関や救急患者の搬送機関との連携体制のもとに、重篤な救急患者への医療を確保することを目的に設置された、地域の救急医療体制を完結する機能を有する三次救急医療機関です。僕自身、初期研修を三次救急のない病院で行なったこともあり、初めての土地で救急医として働くことに最初は不安もありましたが、実際働き始めてからは、そんな不安も忘れるぐらい豊富な症例を経験させて頂きました。

Common diseaseはもちろんのこと、脳卒中、心疾患、熱傷、低体温と幅広い症例の初期対応を、そして今まで見たことのない

いようなハードな高エネルギー外傷、また救命ICUでの重症患者の集中治療を経験することができました。麻酔科になってから主に手術麻酔に携わってきたため、急性期患者の全身管理を経験したことで今まで自分が掛けてきた麻酔の反省点に気付くこともできました。

研修後半はプレホスに出ることを許可され、ドクターヘリに搭乗することもできました。自分がヘリに乗る日にはたまたまヘリ出動の回数が多く、スキー場での事故の際は直接グレンデまでヘリで行き、事故現場までスノーモービルで行くというドラマみたいな経験までさせて頂きました。半年という短い期間ではありましたが、一緒に働いて指導して下さった先生方は凄い先生ばかりで本当に良い刺激を受けました。大阪医大も2022年には大学病院に救命センターが新設されるということで、今回の研修の経験を少しでも生かすことができると考えております。

麻酔科を考えられている方で同時に救急医療にも興味のある方は、入局してから希望して救急医療を勉強することもできます。もし興味があるなら是非一度、病院見学にお越しください。大阪医大の麻酔科はユニークな先生がいっぱいて楽しいですよ。



三井 寛明 天理よろづ相談所病院 麻酔科

麻酔科2年目を終えて

2019年に大阪医科大学(現 大阪医科大学)麻酔科学教室に入局した三井寛明と申します。

麻酔科1年目は大学勤務で手術麻酔を中心に、集中治療、ペインクリニックについても経験させて頂きました。研修医のころ希望する診療科をいくつか迷いましたが、大阪医科大学麻酔科では手術麻酔だけでなく集中治療も携わっており、さらにペインクリニックを専門とされる先生方がたくさんいらっしゃる、幅広い領域に関われるため最終的に麻酔科を選びました。

同期のレジデントは9人いますが、希望通りに経験を積むことができました。2年目は重症症例の麻酔や心臓麻酔を集中的に学ぶため、手術件数の多い天理よろづ相談所病院に出向し、1年間部長にご指導頂き、安全に麻酔管理を行う事、トラブルが起きた時に迅速に対応し救命すること、心臓麻酔の管理を学び、麻酔科として大きな経験を積むことができました。次年度は、さらに心臓麻酔の経験を積み、術後管理、集中治療の管理も学びたいと思い南敏明先生にご相談したところ、循環器・心臓手術領域を専門とする心臓病センター榊原病院への出向をさせて頂くことができました。

以上のように、自分のやりたいこと、興味のあることを実現する方向へ導いて下さることも、大阪医科大学麻酔科学教室の魅力的な点の一つです。麻酔、集中治療、ペイン領域に興味のある方、まだ進路の決まっていない方でも是非医局に見に来てください。



平松 恵梨 医療法人春秋会 城山病院

レジデント2年目を終えて

レジデント2年目の平松恵梨です。

平成31年度に大阪医科大学の麻酔科に入局し、現在は城山病院で勤務しています。

入局後最初の1年間は大学での後期研修となります。大阪医科大学の麻酔科は指導医の数が多く症例も多種多様であり、1年間で多くのことを学ぶことができます。

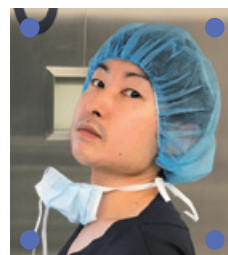
レジデント2年目からは関連病院での勤務となります。大学では上級医の指導の下、2人で麻酔を行います。しかし関連病院ではより自立して麻酔を行うことになります。

城山病院では毎日緊急手術がきます。消化器外科、整形外科に加え、心臓外科、脳外科の緊急もあります。予定手術に比べて状態が悪く、限られた情報の中で行わないといけないことも多いです。しかしその中で学ぶことも多く、力に繋がると思います。

また大学に比べて小規模であることから、術前術後の管理もしやすいです。病棟にも行き来しやすいですし、手術室の隣がICUなので仕事の合間に術後の経過をこまめにみに行くことも可能です。術前術後カンファレンス(外科、麻酔科、臨床工学、リハビリテーション科、手術室・ICU・病棟看護師で行う)で手術の計画やリスクを検討し、術後はICUや病棟で経過をみていくことで、術前から術後まで全ての管理を勉強することができます。術前に麻酔方法を計画し、そして術後に経過をみていくことで、自分のかけた麻酔の反省点を導き出し、次につなげていくことができます。

病院により症例や規模は違いますが、どこに行っても学べることは沢山あり、自立して麻酔をすることにより成長する面が大きいのと思います。大阪医科大学の麻酔科は沢山の関連病院と指導医がいることが強みであり、医局全体のレベルの高さに繋がっていると思います。

麻酔科を考えている方がいましたら、是非一度大学の麻酔科を見に来てください。



三島 洋輝 レジデント

玉磨がざれば光なし ～resident program～

令和2年に大阪医科大学麻酔学教室に入局した三島洋輝と申します。関西医科大学卒業後に高槻病院で臨床研修を終え、当医局に入局致しました。

全身管理に興味があり、手術や集中治療などにおいて患者様の極限状態に立ち合い、全身管理で痛み、不安、侵襲から守りたいと考え、麻酔科医の道を選択し、レジデントとして当院で1年間勤務しました。

当院は全国有数の手術症例を誇り、手術棟もピカピカで新しいため、麻酔科医として研鑽を積む環境として最適です。また、当医局は関連施設が豊富で入局後から非常勤務も行い、多くの上級医からご指導いただけるという魅力付きです。さらには、心臓麻酔や小児麻酔などの専門施設、救急、集中治療施設、海外の専門施設にも派遣させていただき、より高度で最先端な専門医療を学ぶことも可能です。強制的に進路を決められることはなく、ある程度自分のやりたい内容やおかれた環境(育児など)に沿って希望が通るところが特徴です。

当医局員は心臓大好き麻酔科医、小児大好き麻酔科医、ICU16床を管理する集中治療医、神経ブロック大好きペインクリニック、開業して一花咲かせてやろうと目論むペインクリニックなど様々です。どの先生方もとてもフレンドリーで気軽に質問や相談もでき、私のように外部からの入局者(同期9人のうち6人は他大学からの入局者)にとっても、申し分の無い環境であることを確約します。